



ユニフェムよこはま

No.47 2010.5.

ユニフェム UNIFEM YOKOHAMA NEWS よこはま

目次

2010年度 総会	1
新会長挨拶	1
国際女性デー	2~3
宝井琴桜さんの講演	2
シンポジウム「DV根絶 のためにできること」	3
オーストラリアの女性デー	4
ユニよこの協力者達	4
会員のページ	5
エフェム戸塚から	6
国内委員会ニュース他	6

ユニフェムよこはま2010年度総会

2010年2月14日、男女共同参画センター横浜に於いて総会が開かれた。最初に牧野会長の挨拶があり、「2年間の在任の間いろいろな事業や行事など大変でしたが、会員の方々の協力のおかげで無事乗り切れました」と感謝の言葉が述べられた。

2009年度の事業報告・収支決算報告、2010年度の事業計画・収支予算が事業部会の後藤久美子さんと総務部会の芳賀美沙子さんによって報告され、承認された。次に会長選挙によって選出された新会長の西村洋子さん以下、2010年度・2011年度の新役員が紹介された。

新会長は、前会長がこれまでユニフェムよこはまを支えてくださった労をねぎらい感謝を述べ、「会員ひとり一人が活動を自由にしていただきたい。自分は、その潤滑油の役目を果たせれば良いと思っています。地域活動を中心に、生き生きと楽しく活動することが



新しい会員を増やすことにつながると思うので、よろしくお祈いします」と挨拶した。最後にユニフェムよこはまから国内委員会への2009年度の拠出金が50万円になった報告があり、和やかな中に閉会した。

総会終了後、昼食をはさんで会員持ち寄りの品物によるささやかなバザーが開かれた。なかなかのブランド品や手作り品などがあって、和気あいあいの時間を過ごした。
(広報部会 石橋むつ子)

ユニフェムよこはま2010~2011年度役員

顧問—有馬真喜子 相談役—宮坂洋子 会長—西村洋子 副会長—(事業部会長) 後藤久美子、(広報部会長) 本田敏江、(総務部会長) 竹内美千代 役員—青沼智子、石井慶子、石橋むつ子、伊藤千鶴子、衛藤栄津子、大森晴子、桑原正子、樽谷文代、高橋克子、西村尚子、芳賀美沙子、牧野迪代、満生慶子、山本紀子、渡邊皓子、監事—佐伯律子・村松弘恵

新会長の挨拶

～豊かな想像力と柔らかな心～

西村 洋子

ユニフェムよこはまは、ちいさなNGOです。しかし会員のひとり一人が、何か世の中のお役に立ちたいという気持ちを持って入られている、素晴らしい人の集まりです。途上国の女性の支援を考える時に必要なことは、「豊かな想像力と柔らかな心」だと思うのです。想像力とは、常に相手の立場に自分を置きかえられること、つまり自分がその立場だったらどうして欲しいか、ということ先ず考えられる人間であって欲しいものです。そして柔らかな心をもつということは、柔軟な発想でしょうか。決まりきった考え方を捨て、諦めずに、あらゆる選択肢を模索する姿勢を持ち続けることです。

目の前の現状に対し、何もできないもどかしさを感じることも多いのですが、知ったことを伝えることも立派な支援です。ユニフェムよこはまの輪がますます広がりますよう、みなさまと一緒に考え、行動したいと思ひます。



女性の3人に1人が、配偶者やパートナーからの暴力を受けたことがあると報告されています。ユニフェムよこはまは、今年の国際女性デー「ユニフェム日本国内委員会助成金事業（エイボン・女性のエンパワメント・プレスレット基金）」を受け、3月6日、男女共同参画センター横浜にて「DV根絶のための講談とシンポジウム」を開催しました。

啓蟄というのに冷たい雨が降る中を、会場では女性デーのシンボル、ミモザの花が参加者を迎えた。後援団体のパネルの展示やグッズの販売も催しを盛り上げた。ユニフェムよこはまは西村洋子会長、横浜市男女参画推進協会藤井紀代子理事長による挨拶で会は始まった。

第一部 講談 「DV根絶のために～女と男すてきな関係」

講談師 宝井 琴桜



張り扇をたたいて熱く語る琴桜さん

講談でDVを

DVは小学生レベルでも知られる語となりつつあり、深刻化している。

女流講談師の宝井琴桜さんは、500年もの歴史があるという、一つのテーマを噛み砕いて分かりやすく話す大衆芸能「講談」という手法を使い、重く、ともすれば、聞き手が「スーッと引いてしまいそうな（琴桜さん）」DVの問題をいろいろな側面から私たち聴衆に興味深くそして分かりやすく語ってくれた。

女性を取り巻く運動と法律

「男に出来て女に出来ないことはない」「やらせてもらえないから出来ない」－坂本龍馬の姉の乙女の言葉の引用は私たち聴衆にとってハッとするものがあった。「女であることが因果」－母の苦悩の言葉を忘れなかった市川房枝が、女性の政治的社会的自由の確立を目指し婦人参政権運動を主導し「新婦人協会」の設立など女性の地位向上に貢献した平塚雷鳥そして奥むめお達と展開した、女性を取り巻く運動を簡単に紹介してくれた。「男女共同参画社会基本法（1999.6月制定）」の5つの柱の一つ「男女の人権の尊重」がDV防止（DV防止法の制定は2001年）に不可欠であることを再認識させてくれた。しかし上記のような法律や女性の人権に関わる諸々の社会的活動の詳細を噛み砕くのは難しい上に、女であることの窮屈さをいろいろな場面で体験した人は数多いだろう。次のようなエピソードは聴衆の多くの方々も納得されたに違いない。紹介しよう。

DVに関するエピソード

架空の家族「山下家」が登場する。主人公は82歳のハナさんである。友達のヨシさんを誘って老人会主催の「男女共同参画社会基本法」に関する講演会に出かけるところである。「そうだ、タケちゃん（二人の共通

の友人）も誘おうよ」ということになる。誘いを受けたタケさんの顔は暗く、返事は曖昧だ。退院してきた御亭主のヒョウロクさんの暴言が奥から聞こえてくる。タケさんはこの御亭主と連れ添って以来60年間、バカ呼ばわり同然で過ごしてきて、今度は介護を必要として寝ているヒョウロク氏に今なお隷属し、「もう少しの我慢」と自分に言い聞かせながら生活しているのである。「殴らなければいい人なんだけど」のタケさんに「いい人って殴らないんじゃないの」と問いかける2人。これはあらゆるDVの基本的な根幹をなす名言である。又2人は講演会の帰り、バスに乗り遅れたことに腹を立て、妻を怒鳴り、足蹴にする夫を見かけ、思わず聞いてきたばかりの基本法「男女の人権の尊重」を訴える。

DVという重いテーマを、琴桜さんは悲しい話ながらも時には笑いを交えて、興味深く語ってくれた。張り扇を太鼓のばちの如くに机に叩きつけて、テンポ速く語るその術に、聴衆の各自が引き込まれたと確信する。人権の尊重というテーマに問題を投げかけた先駆的女性に感謝をしつつ、ハナさん物語を身近な例とし、わが身を人間として尊い存在なのだと再認識したのは筆者だけではないはずだ。「女性に対する暴力の根絶」は「女性」「貧困」という二重差別に苦しむ途上国女性を支援するユニフェムの4つの基本理念の一つである。

しかしながら、「女性に対する暴力」は、もはや途上国だけの問題ではない。壇上を飾るミモザ、桜の大きな花束を心の土産として、新たなる自分を発見して帰路につかれた方々も大勢いらしたことだろう。宝井琴桜さんに感謝したい。

（事業部会 青沼智子）

第二部 シンポジウム 「DV根絶のためにできること」

宝井琴桜講談師の軽妙な語り口による身近な話題によって、DVという深刻な問題について参加者の理解が深まったところで、絶妙なコーディネートによりシンポジウムが行われた。

パネリスト

東 玲子 弁護士、NPO法人子どもセンターてんぼ 理事

瀧田信之 NPO法人湘南DVサポートセンター 理事長

阿部真紀 NPO法人エンパワメントかながわ 事務局長

コーディネーター

納米恵美子 男女共同参画センター横浜 館長



納米恵美子さんの絶妙なコーディネートにより進行

DVと子ども

まず東玲子さんから神奈川県配布の冊子「ドメスティック・バイオレンスをなくすために」を使って、弁護士活動の具体的な事例を交えながら分かりやすい説明があった。その中で「1回しか暴力をふるっていないという言葉が聞きますが、ライオンに攻撃されたことが1回しかないからといって恐怖が生まれないといえるのでしょうか。1回の経験で大きな恐怖が生まれ、その後ずっと恐怖に心を支配されることになるのです」との発言に、うなずく参加者が多かった。また「児童虐待防止法では、子どもにDVを見せることも虐待につながると規定。DV被害者が子どものために我慢するというのはおかしいと理解してほしい」と語った。



ケアプログラムでは

瀧田信之さんの取り組む11週の「暴力を目撃して育った子どもの心のケアプログラム」では、「DV家庭で育ったのは自分だけと、孤立的な子どもに対して、グループ活動によって世の中には同じ境遇の人もいるという安心感から、恐怖と対峙できるように支援。2人のファシリテーターによるサポート体制をとって一番怖かった暴力を絵に描いて発表しようという活動を行うと、グループに集団の力学が及んできっかけができ、大きな輪ができて解決の方向へ進むことができる」と報告。瀧田信之さんは「何よりも子どもの自尊感情、自分を大切に思う気持ちをもたせる」ことを強調した。



デートDV

阿部真紀さんも「すべての子どもと大人の人権意識を高め尊厳をもって生きることのできる社会の実現には、一人ひとりの自尊感情を育て、エンパワメントすること」と発言。また最近10代後半の子どもたちに起きているデートDVについて、啓発プログラムを受けた女子高生の感想が報告された。実際の事例で、女子高生たちがどう見てもつきあっている相手に支配されている友人から、本当のことを聞き出した後、友人の相手に当初2、3人で抗議したが、怖い思いをして戻った。その後数十人で相手を問い詰めて、友人本人も嫌だったと意思表示をし、ついに別れさせたという。デートDVという若年層の被害・加害に憂えているだけでなく、高校生から学ぶことができた事例として、今後の活動に明るい見通しをもつことができた。

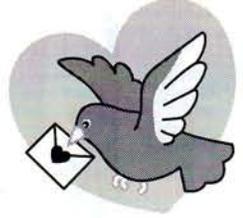


今後の課題は

実際のDV被害は刑法犯で処理されるので、警察の運用をもっと厳しくすること、法律では配偶者・かつての配偶者の家庭内暴力を対象としていて、現在において恋愛関係にある場合は入っていないため、デートDVについては予防啓発活動が必須であること、シェルターの充実とその後の支援体制が必要なこと、NPOと行政の連携を深めるとともに、NPOへの資金援助が必要なこと等、課題が多く挙げられた。

最後に質問に答えて、活動に携わる人は笑顔がスパイス、活動は男女別なく、被害者にくりかえし支援し心配しているというシグナルを出し続けることが解決につながると、参加者も再認識し有意義なシンポジウムとなった。

(広報部会 桑原正子)



オーストラリアのユニフェム会員であるマデリン・ファースさんは、前号でも紹介しましたが、交換留学生として昨年1年間、立教大学で学んでいました。来日中はユニフェムよこはまの会員とも親しく交流し、今年1月に帰国しました。その後、会員とのEメールのやり取りのほか、今回、オーストラリアでの国際女性デーの様子を伝えてくれました。

3月8日の国際女性デー オーストラリアでは、この日はユニフェムオーストラリアにとって資金を集め、会員を増やすための重要な日である。

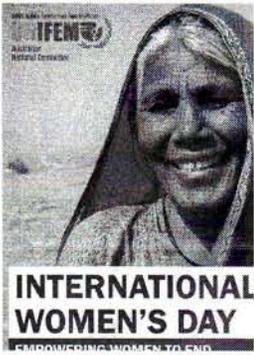
ユニフェムオーストラリアは“2015年までに女性たちが力をつけて貧困をなくそう”というテーマの下に活動している。2010年は60以上の国際女性デーの行事を支援した。朝食会 昼食会 討論会 映写会 デモ行進 美術展覧会などである。ケビン・ラッドオーストラリア首相がシドニーで私たちが主催した国際女性デーの朝食会に出席し、クウェンティン・プライス連邦総督がキャンベラの国際女性デー昼食会に参加したことなどを始めとして1万人以上の人々が、これらの行事に参加した。

ユニフェムオーストラリアは人々を勇気づけることにすぐれた何人かの女性を招き、話をしてもらった。その中にはマレーシア「イスラム修道会」のハミダ・マリカン事務局長、ニューヨークユニフェムでアフリカ部門を担当しているタコ・ナディアアイさん、テレーズ・レインオーストラリア首相夫人が含まれる。

ユニフェムオーストラリアが国際女性デーで集めたお金は全額、インドネシアでユニフェムが行っている女性移住労働者を支援するプロジェクトに拠出される。“インドネシアの女性移住労働者を支援する”というプロジェクトはユニフェムのアジア太平洋及びアラブ諸国地域計画の一環であり、2001年9月以降、インドネシアにおいて着実に実行され、貧しい女性移住労働者にとって何が主要な問題であるかが明らかにされつつある。

国際女性デーで集められたお金の総額はまだ分からないが、私たちには多くの方々から絶大なる感謝の言葉が寄せられており、2010年の国際女性デーは大成功であったと思う。

(翻訳 広報部会 三澤美恵子)



オーストラリアの
国際女性デーポスター

ユニフェムよこはまの協力者たち



ユニフェムよこはまに協力してくださっている方々や団体を紹介しています。今回は「アジアの女性と子どもネットワーク」の代表である山本博子さんよりお便りをいただきました。

「アジアの女性と子どもネットワーク」の活動

山本 博子

タイ北部には100万人以上の山地民がそれぞれ独自の言語・文化を持ち、伝統的な生活様式を守って暮らしています。しかし、近年の急速な経済発展、グローバル化により伝統的な山の暮らしも徐々に変化し、毎日のお米にも事欠くような暮らしに陥ってしまいました。

1996年、私たちは北タイで就学の機会を求める山地民の親子と出会いました。教育を受けられない→字が読めない→仕事に就くことができない→貧困から脱出できない…と悪循環が続き、社会的弱者の立場から抜け出すことが非常に難しい彼らの現状を知り、何とか改善する手助けをしたいと「アジアの女性と子どもネットワーク」を立ち上げました。

まず一番に子どもたちの教育が大事だと考え、学校建設を含めた教育支援を中心に活動してきました。これまでに山地民の村や、スマトラ沖地震の被災地などに合計10校の学校を建設し、約4,000人の子どもたちがそれらの学校で学んでいます。現在は、子ども買春・子どもポルノ・子どもの人身売買、AIDS孤児、子どもたちの栄養不足の問題等にも目を向け、それらの課題解決のための事業にも力を入れています。

2010年度には新しい事業として、山地民の少女たちに性教育を中心としたライフスキルトレーニングを始めます。子どもの権利やHIV/AIDSに関する知識の提供を通して、危険から身を守り、自身を大切にする気持ちを育み「自分たちの状況に気付き、見直せるスキルを身につけ、エンパワメントできるように」を目標にした活動の一環として続けていきます。



ユニフェムの使命に感動

総務部会 河井 晴美

私は2005年に一度入会し、その後、転居のため3年間休み、この度再入会いたしました。総務部会に属し、主としてショップと事務のお手伝いをしています。初めて事務局を訪れた時、ショップに並んでいるユニークな品々にすっかり魅せられました。素朴な中に、それぞれの国の伝統が息づいていて、女性たちが器用に手を動かしながら作っている様子が目に見えるようでした。入会后、徐々に分かった事はユニフェムの使命は、過酷な状況にある途上国の女性の自立を援助するための基金を調達して、国連に納めることだと知り大変感動しました。私は10代からガールスカウトとして世界との繋がりに興味をもち、ソーシャルワーカーとして働く中で弱者に寄り添う援助などを学びました。自分の経験を社会に還元したいと思っていたところに、ユニフェムとの出会いがあり感謝しています。言うまでもなくユニフェムにとっての早急の課題は、広く認知されることにより会員増を図り、活動を活性化することではないでしょうか？ さてその具体案は・・・？様々な分野で活動されてきた緒会員の熱意で、きっと妙案が捻出されると期待しています。私も微力ながら頑張りますのでよろしくご指導をお願いします。



ユニフェムとの出会い

広報部会 高橋 克子



ユニフェムに出会ったのは新聞の小さなコラム、「横浜市が途上国の女性支援を始める」という記事です。その頃子育ても一段落し本格的な社会復帰を望んでいた私は、思い通りにいかない現実に釈然としない気持ちを抱いていました。女性に息苦しさをもたらす社会の根本に潜んでいるもの、その正体を見極め、現実を変えていく活動に自分の時間を提供できたらと思っていた矢先でした。早速、横浜市女性協会にボランティアを申し出て、運よく「ユニフェムよこはま」設立の仲間に入れていただきました。事務局業務を2年ほどして、ユニフェム日本の事務局員へ。設立総会で講演された故松井やよりさんの言葉「支援NPOといえども、大切なのはユニフェムの仕事を監視すること」が、今なお、胸に響きます。ユニフェムよこはま広報紙第1号にその概略を掲載しました。

佐伯さんと二人で、真っ黒なニューズレターや入会リーフレットを印刷したあの頃。今、立派なそれらを手にして隔世の感を禁じえません。ユニフェムの理念の達成も私自身のエンパワメントも、まだ道はるかですが。

ニューズレターと共に

広報部会 佐伯 律子

私は1985年に開催された「国連婦人の10年世界会議」の「NGOフォーラム」参加のため、横浜市が募集した「第4回婦人問題海外セミナー」に応募、そのご縁でユニフェムよこはま設立の知道了。1994年設立当初から現在まで、広報部会に所属、主にニューズレターの写真を撮り続けてきました。イベントごとに撮り続けてきましたが、未だに目的にあった写真の難しさを感じています。没になった写真の数々。でも、それらも私にとっては宝物で、処分できずにいます。北京・ネパール・モンゴルなどスタディツアー時は、ビデオカメラも持参、編集に苦労したことが思い出されます。

設立から16年、ユニフェムよこはまの活動も進化。広報紙創刊号は、手書きの原稿をワープロで打ち直し、切り貼りしたものを自分たちで印刷しました。それが今は、パソコン・デジカメのお蔭で編集技術もアップ、若い力も加わり広報手段としてホームページも手がけ、紙面の内容も充実してきました。会員の増加が課題ですが、「途上国の女性たちの自立の支援」の理念を少しでも多くの人たちに伝えるために、広報の役割の重要性を感じています。



4月から半年間にわたり、エフエム戸塚の番組で
「ユニフェムよこはま」を語ります。 乞うご期待!

エフエム戸塚パーソナリティー 相浦 やよい


活躍する相浦やよいさん

「エフエム戸塚をお聞きの皆さん、こんにちは。83.7MHz、東戸塚駅西口の本社スタジオから生放送でお送りしています」こんな挨拶からラジオは始まります。どうぞスタジオに見学に来て下さい。番組制作、選曲、ミキサー、ニュースなど一人パーソナリティーで張りきっています。totsuka heartfelt kitchen (火曜13:00~14:55)に西村会長にご出演いただいたのが3月2日。「国際女性デー2010年事業DV根絶のための講談とシンポジウムにぜひご参加下さい」と、熱く語っていただきました。その日の私は、以前ユニフェムショップで購入したネパールのネックレスをつけ西村会長をお迎えしました。ユニフェムとの出会いはユニフェムショップからでした。商品を手に取りスタッフの方からその国の情報を聞き、女性の自立に想いを馳せていました。ユニフェムの様々活動もここで知ったのでした。ショップに並ぶ絵葉書の数々も大好きです。2年前からは広田千悦子シリーズ「自然からのおくりもの」を年賀状として使っています。送ることで友人たちにユニフェムを知ってもらいたかったのです。4月29日で開局1周年のコミュニティ放送局、エフエム戸塚。新しいコーナーでユニフェムよこはまのことを語りたい私の思いと、まるで重なるように西村会長が本社スタジオを訪ねて下さったのが2月末のことでした。そして4月から半年間、3週間おきにユニフェムよこはまの皆様と「ハートフルレシピ!」のコーナーを作っていきます。地域のコミュニティ放送局「エフエム戸塚」が「ユニフェムよこはま」を通して世界を見つめる、画期的なコーナーの誕生です。どうぞ宜しくお願いします。

*相浦さんはラジオの絆(日曜15:00~17:55)も担当しています。

ユニフェムよこはま活動予定

月 日	内 容	会 場
8月7日(土)	サマーセミナー	中華街石川町駅前マンション集会室
9月11日(土)	磯子国際交流フェスティバル	磯子区役所
9月11,12日(土・日)	あーすフェスタかながわ	あーすプラザ
9月22日(水)	横浜市シンポジウムに参加(APEC関係)	産業貿易センター
10月17日(日)	フォーラム南太田まつり	フォーラム南太田
10月24日(日)	フォーラムまつり	フォーラム(戸塚)
10月31日(日)	アートフォーラムあざみ野フェスティバル	アートフォーラムあざみ野
11月23日(火・祝)	青葉区民交流センターまつり	青葉区民交流センター
12月	チャリティコンサート	かなっくホール

ユニフェム日本国内委員会ニュース

皆様のご努力のおかげで、2009年度の拠出金は過去最高の8,690,507円になりました。そのうち3万ドルは「CEDAWを超えて—パキスタンにおける女性の人権を実現するための国際的取り組みの実施促進プログラム」第2フェーズへ。州政府レベルにおける条約の実施強化プログラムのうち、ユニフェム日本からの拠出金はシンド州およびパンジャブ州女性開発局の強化へ活用されます。

ユニフェム大阪のアジア基金による支援は、「若者は女性に対する暴力を許さないメディア・キャンペーン」のドキュメンタリー制作費。その他、アフガニスタン女性支援、暴力撤廃基金に拠出します。

***新しいお仲間です**

正会員：相浦やよい 室岡君世
島岡圭子 木次順子

賛助会員：山重美登士

***ありがとうございました**

寄付：ファイバーリサイクル
川野節子 青山恵子 (敬称略)

ユニフェムよこはま 第47号

発行日 2010年5月1日
発行局 ユニフェムよこはま
〒244-0816
横浜市戸塚区上倉田町435-1
男女共同参画センター横浜内

TEL・FAX 045-869-6787
Eメール unifemyokohama@blue.ocn.ne.jp
Webpage <http://www.unifemyokohama.org/>
編集・デザイン ユニフェムよこはま広報部会